

第3学年 社会科学学習指導案【当日修正版】

令和元年6月7日（金）午前の公開授業

3年4組 男子21名 女子19名 計40名

指導者 坂田 元丈

【授業】9:40～10:30 会場 3年4組（4階）

【協議会】10:45～11:55 会場 2年4組（3階）

- 1 単元名 よりよい社会を目指して～SDGs（持続可能な開発目標）～
—「コンパクトシティ政策」でよりよい社会の実現は可能か—

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

本単元は平成29年告示の学習指導要領の公民的分野の大項目「D 私たちと国際社会の諸課題」の中項目「(2)よりよい社会を目指して」に入る。この中項目では「持続可能な社会を形成することに向けて社会的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を通して」「解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること」とある。また、「持続可能な社会を形成する」とは「将来の世代のニーズを満たすようにしながら、現在の世代のニーズを満たすような社会の形成を意味する。すなわち、持続可能な社会を形成するためには、世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことが必要である」とある。

社会的な見方・考え方を働かせることについて、現代社会の見方・考え方に関しては、持続可能な社会の実現として、大項目D「ア 知識を身に付けること」で『誰一人取り残さない』との理念の下、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなどにかかわる17のゴール（目標）・169のターゲットからなる持続可能な開発目標（SDGs）を設定し、持続可能な開発のための取組を各国の国家主権を前提に進めている国際連合をはじめとする国際機構の役割が大切になってきている現状を理解できるようにするとともに、国際社会において、国家や国際機構以外の組織が活動していることを理解できるようにすること」さらに、「持続可能な開発目標（SDGs）に触れながら、対立と合意、持続可能性などに着目して具体的な課題を捉え、我が国でもその解決を目指し、持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指すことをビジョンとして掲げて取組を進めていることと関連付けて、我が国が抱える課題と国際社会全体に関わる課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、構想し、表現できるようにすること」とある。歴史的な見方・考え方としては「社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」とある。また、地理的な見方・考え方としては「地球的課題」について学習する場面において「グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標（SDGs）などに示された課題の内から、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などにかかわる課題を取り上げることが意味している」とある。

よりよい社会を築いていくために解決すべき課題の設定については、「身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させるなどの工夫を行い」とあり、本単元においては、持続可能な社会の実現とそれに関わるSDGsを取り上げ、身近な地域として富山市において推進されている「コンパクトシティ政策」を通して、富山市が解決すべき課題とその解決方法について考えさせる。近年、政府は地方創生と中長期的な持続可能なまちづくりを推進すべく、積極的にSDGsに取り組んでいる29の自治体を「SDGs未来都市」として2018年6月15日に選定した。併せて、富山市の「コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現」計画がSDGs未来都市の中でも先導的な取組であって、多様なステークホルダーとの連携を通じて地域における自律的好循環が見込めるものとして、「自治体SDGsモデル事業」10事業の1つに選定した。富山市は、人口増加とモータリゼーションの進展により市街地が外延化し、中心市街地の人口減少と商業機能の低下、公共サービスコストの増大という問題が生じた。これに対して、市では鉄道やバスなどの公共交通を軸として生活拠点をつなぐことによって歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指した。その中で2006年には全国初の本格的LR Tの「富山ライトレール」が開業し、2009年には市内電車環状線「セントラム」が開業した。富山市では2万人あまりの人口がある436haの範囲の中心市街地と鉄道で結ばれた各駅周辺に集約する生活拠点を含めてコンパクトシティと捉え、平成14年から「団子と串の都市構造」（「団子」が駅周辺の生活拠点、「串」が公共交通網）と表現したまちづくりを進めてきている。

そこで、SDGsの取組として「なぜ富山市はコンパクトなまちづくりを目指しているのか」との問いを設け、富山市が抱える問題やコンパクトシティ政策の効果見込みについて扱う。そして、将来における方向性として、「富山市が抱える問題を解決するために、コンパクトシティ政策は今後も続けていくことはよいのか」についての議論を行うという単元構成をとることとした。

5 全体計画 (4次・全7時間)

(1) 全次の問いと配時

◇第1次：持続可能な開発目標 (SDGs) とは何だろうか。《What 型の問い》 1時間
(持続可能な社会とはどのような社会なのだろうか。)

【獲得される知識・概念】

- ・持続可能な社会とは将来世代のニーズを満たしながら現在の世代のニーズを満たす社会である。
- ・持続可能な社会は環境・経済・社会の統合的向上を目指す社会である。
- ・SDGsとは、2030年までに「持続可能で誰一人取り残さない社会」を目指すものである。

◇第2次：なぜ、富山市はコンパクトシティ政策が推進しているのだろうか。《Why 型の問い》

【獲得される知識・概念】 2時間

- ・富山市は、将来的に人口減少や超高齢社会から財政悪化が予想されている。
- ・富山市は、過度な自家用車依存により二酸化炭素排出が減少せず、公共交通の維持が困難になり、環境や社会の発展に影響が出ることが予想されている。
- ・コンパクトシティとは、公共交通を軸に徒歩圏内で商業や公共サービスを提供することができる。このようなスパイラルはシステム思考によって支えられている。
- ・コンパクトシティを進めることでシビックプライドが高まり、よりよいまちづくりにつながる。
- ・コンパクトシティは、環境保全、財政コスト削減 (インフラ整備, 健康寿命の伸長), 防災対策, 高齢化対策ができるなど、持続可能な社会の実現を目指すことができるまちづくりである。

◇第3次：富山市が抱える問題はコンパクトシティ政策で解決できるのだろうか。《Which 型の問い》
～富山市が抱える問題を解決するために、コンパクトシティ政策を今後(10年20年先)も続けていくとよいだろうか。～

【獲得される知識・概念】 (ここでは「価値的知識」) 2時間 (本時2/2)

- ・持続可能な社会を形成するためには、世代間の公平, 地域間の公平, (男女間の平等, 社会的寛容, 貧困削減), 環境の保全, 経済の開発, 社会の発展を調和の下に進めていくことが必要である。

◇第4次：よりよいまちづくりをすすめるためには、どうすればよいだろうか。 2時間

【獲得される知識・概念】

- ・日本と同じような問題を抱える世界の都市の類似例を参考にすると、コンパクトシティ政策は問題の解決に結びつく可能性がある。

(2) 「学習指導過程」

過程	教師による発問・指示 (学習課題・単元を貫く問い)	期待される生徒の反応や活動 (獲得させたい知識・概念)
◇ 第1次 SDGs) と は何か。 (1時間)	01 1年生の地理の時間に南アメリカ州を取り上げましたが、どんな話をしましたか。 02 何が問題になりましたか。 03 他に問題になった点はありませんでしたか。 04 その解決方法は何ですか。 05 こちらの資料を参考に、解決方法を考えましょう。 06 どんな解決方法になりますか。 07 この方法は何がよいのですか。 08 このように環境と経済のバランスをとりつつ、先進国と途上国との格差を減らす方法は持続可能なものであると言えます。 09 SDGsということばを聞いたことがありますか。 10 SDGs とは何ですか。 11 日本語では持続可能な開発目標と言います。資料を配ります。	・アマゾンの森林開発を続けるべきかどうかを話し合いました。 ・持続可能な社会という言葉を知りました。 ・経済を優先するか、環境を優先するかが問題となりました。 ・世代間の公平性や地域間の格差などが問題となりました。 ・資料を読み、解決方法を考える ・排出権取引で先進国は途上国に技術支援する代わりに排出量を購入するという方法です。 ・途上国の経済発展を妨げることなく、地球全体で排出量を減らすことができます。 ・「 <u>持続可能な社会</u> とは「 <u>将来世代のニーズを満たしつつ、現代の世代のニーズを満たし、環境・経済・(世代間や地域間の格差がない)社会が維持され発展する社会である。</u> 」 ・あります。ないです。 ・富山市がPRしていました。 ・説明を聞く。

	<p>12 映像を見てください。</p> <p>13 何年までに達成しようとしていますか。</p> <p>14 キーワードは何ですか。</p> <p>15 身近なところで、SDGsについての取組例を知っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像を視聴する ・2030年までの目標としています。 ・「誰一人取り残さない」です。 ・コンパクトシティによるまちづくりです。 ・富山市の公共交通を軸にしたまちづくりです。
<p>◇ 第2次 なぜ、富山市はコンパクトシティ政策を推進しているのか。 (2時間)</p>	<p>16 <u>富山市はなぜコンパクトシティ政策を推進しているのですか。</u></p> <p>17 富山市で解決すべき問題は何ですか。</p> <p>18 効果の見込みや結果はどうなっていますか。</p> <p>19 富山市のコンパクトシティをつくる突破口は何ですか。</p> <p>20 公共交通を利用してもらうことで、どうなるのですか。</p> <p>21 このように一つのきっかけで社会が順々に変化していく見方や考え方を何といいますか。</p> <p>22 人々が中心部にコンパクトに住むと何がいいのですか。</p> <p>23 コンパクトシティづくりは誰が行っていくのですか。</p> <p>24 まちをつくっているのは、行政だけなのですか。(行政任せでまちはできているのですか。)</p>	<p>(以下、問題・効果について読み取ったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>郊外化によって膨らむ上下水道整備や除雪をはじめとする財政コストを削減するため。</u> ・<u>中心部の商店などの賑わいを取り戻すため。</u> ・<u>公共交通を利用してもらう、維持するため。</u> ・<u>車利用が減り二酸化炭素削減につながるため。</u> ・<u>新幹線で来た観光客を市街地に集めるため</u> ・<u>ドーナツ化による少子化をくい止めるため。</u> ・<u>転入を増やすために魅力的な町を目指すため。</u> ・<u>高齢者が徒歩で生活することで健康になり、医療費の削減などで高齢化対策になるため。</u> ・公共交通を利用してもらうこと。 ・公共交通の近くに住んでもらうこと。 ・中心部が活性化する。 ・二酸化炭素の削減になる。 ・お年寄りが徒歩で生活して健康になる。 ・「システム思考」といいます。(「システム思考」について、用語としてではなく、見方・考え方として概念を身に付ける。) ・<u>持続可能なまちづくりを進められる。</u> ・<u>住みよいまちづくりの背景である「シビックプライド」を高めることができる。</u> ・<u>環境・経済・社会をバランスよく維持することが可能となる。</u> ・<u>財政コストや行政サービスの効率がよくなる。</u> ・市役所。市長。 ・住民。今後富山市に住もうと思っている人。 ・(「シビル・ミニマム」の決定は市民・自治体の共働で行うことについて、整理する。)
<p>◇ 第3次 富山市の問題は解決できるか。(2時間)</p>	<p>25 <u>富山市が抱える問題を解決するために、コンパクトシティ政策を今後(10年, 20年先)も続けていくとよいだろうか。<本時></u></p>	<p>[※詳細は本時の指導演案]</p>
<p>◇ 第4次 よりよいまちづくりはどうか。(2時間)</p>	<p>26 <u>富山市が抱える問題を解決するためには、どのようなまちづくりを行っていけばよいだろうか。</u></p> <p>27 世界の都市の類似例からよりよいまちづくりについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>持続可能なまちづくりとは、環境・経済・社会の統合的向上をめざしたまちづくりである。</u> ・富山市の抱える問題は、<u>コンパクトシティ政策によって解決することができる。</u>

※獲得させたい知識・概念(上記波線部)に着目して捉えたり、関連付けたりすることは先述4(1)「現代社会の見方・考え方」を働かせ、4(2)「資質・能力」の育成につなげられる。

6 本時の学習（2 / 2時間）

（1）指導目標

富山市が抱える問題とこれを解決するために推進されているコンパクトシティ政策の分析について、話合うことを通して、コンパクトシティ政策には将来世代の環境の保全・経済の開発・社会の発展を調和の下に進めていけるという利点がある一方で、現代世代のニーズからは離れているという課題があることについて理解させる。

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点												
<p>1 本時の学習課題と前時までの学習を確認する。</p> <p style="text-align: center;">～富山市が抱える問題を解決するために、コンパクトシティ政策は今後(10年20年先)も続けていくとよいだろうか。～</p>													
<p>2 課題に対して意見交換する(立論→反論→反論へ反論)。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【A案】 よい。 (うまくいくと思うので) 理由付け↑ </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【B案】 よくない。 (うまくいくと思わないので) 理由付け↑ </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・高齢者が多く住む地域に公共交通網が整備されているので、高齢化に対応できる。 ・中心部の賑わいが生まれ、流入人口や児童数が増加している。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・中心部への集住が進むと、新たに都市環境の問題が発生するのではないか。 ・中心部だけに財政が投入されることは納税者にとって公正ではない。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">反論↑</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">反論↑</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・子育て世代は郊外の広い家に住む人が多い。そこまで、中心部に住もうという人は増えていない。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・今のうちから段階的に取り組んでおかないと、将来の人口減少と超高齢社会に対応できない。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">反論への反論↑</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">反論への反論↑</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・他の郊外の事例によれば、郊外も高齢化が進み、公共交通がないと高齢者の移動の利便性が下がっている。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ・中心部での生活を始めるにはお金がかかる。お金に余裕のある人はできるが、それでは公正ではない。 </td> </tr> </table>	【A案】 よい。 (うまくいくと思うので) 理由付け↑	【B案】 よくない。 (うまくいくと思わないので) 理由付け↑	・高齢者が多く住む地域に公共交通網が整備されているので、高齢化に対応できる。 ・中心部の賑わいが生まれ、流入人口や児童数が増加している。	・中心部への集住が進むと、新たに都市環境の問題が発生するのではないか。 ・中心部だけに財政が投入されることは納税者にとって公正ではない。	反論↑	反論↑	・子育て世代は郊外の広い家に住む人が多い。そこまで、中心部に住もうという人は増えていない。	・今のうちから段階的に取り組んでおかないと、将来の人口減少と超高齢社会に対応できない。	反論への反論↑	反論への反論↑	・他の郊外の事例によれば、郊外も高齢化が進み、公共交通がないと高齢者の移動の利便性が下がっている。	・中心部での生活を始めるにはお金がかかる。お金に余裕のある人はできるが、それでは公正ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・判断する際の『判断の基準』は環境・経済・社会の調和がとれ「持続可能な社会」、「効率と公正」であることを想起させ、判断の妥当性の検証を行うための話合いであることを助言し、論点がずれないように意見を整理する。 ・反論(説得)する際は「理由付け」に対して「根拠」を明らかにしながら反論するよう助言する。 ・A案は赤色、B案は青色、どちらとも言えなくなった際は緑色のカードを示し、立場が変更した場合もカードで示させる。 ・意見の追加・質問・反論についてはハンドシグナルを用い、常に自分の立場を明確にして発言できるようにする。 ・どの立場で発言しているのかを明確にさせ、構造的に板書する。
【A案】 よい。 (うまくいくと思うので) 理由付け↑	【B案】 よくない。 (うまくいくと思わないので) 理由付け↑												
・高齢者が多く住む地域に公共交通網が整備されているので、高齢化に対応できる。 ・中心部の賑わいが生まれ、流入人口や児童数が増加している。	・中心部への集住が進むと、新たに都市環境の問題が発生するのではないか。 ・中心部だけに財政が投入されることは納税者にとって公正ではない。												
反論↑	反論↑												
・子育て世代は郊外の広い家に住む人が多い。そこまで、中心部に住もうという人は増えていない。	・今のうちから段階的に取り組んでおかないと、将来の人口減少と超高齢社会に対応できない。												
反論への反論↑	反論への反論↑												
・他の郊外の事例によれば、郊外も高齢化が進み、公共交通がないと高齢者の移動の利便性が下がっている。	・中心部での生活を始めるにはお金がかかる。お金に余裕のある人はできるが、それでは公正ではない。												
<p>3 次時の学習を確認する。</p> <p>・富山市が抱える問題を解決するためには、どのようなまちづくりを行っていけばよいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・経済・社会の統合的向上をめざした持続可能なまちづくりについて考えることを予告する。 												

（3）学習評価の視点

富山市が抱える問題とこれを解決するために推進されているコンパクトシティ政策の分析について、話合うことを通して、コンパクトシティ政策には将来世代の環境の保全・経済の開発・社会の発展を調和の下に進めていけるという利点がある一方で、現代世代のニーズからは離れているという課題があることについて理解することができたか。 【知識・技能】(発言・ワークシート)

7 授業観察の視点（本校の研究の視点①～③との関係）

- ・社会的な見方・考え方を重層的に捉える「知識の構造図」と、これに相関する「問いかけ」は効果的であったか。 【視点①：資質・能力】・【視点③：問いかけ】
- ・SDGsやこれに関わる富山市のコンパクトシティの事例を取り上げ、よりよい社会の実現を考えさせる単元構成は、社会に生きる市民としての態度育成につながったか。 【視点②：実践力】